

国連大学 40 周年記念事業
国連大学特別シンポジウム—
持続可能な開発のための 2030 アジェンダの実施に向けて
山田外務大臣政務官 挨拶
(11 月 6 日 (金曜日) 13:30-14:00 於:国連大学)

石原伸晃 (いしはら のぶてる) 衆議院議員,
堂故 茂 (どうこ しげる) 文部科学大臣政務官,
各国大使閣下,
マローン国連大学学長,
御列席の皆様,

只今御紹介頂きました, 外務大臣政務官の山田美樹です。
本日はこのような重要なシンポジウムで挨拶する機会をい
ただき, 光栄です。

はじめに, 国連大学創立 40 周年を迎えられましたことに
対し, 心よりお祝い申し上げます。

我が国は, 国連大学の設立に当たりその本部を我が国に積
極的に誘致し, また, 創立以来国連大学の活動を支援してき
ました。この間, 国連大学は, 世界に 13 の研究所を持つま
でに拡大し, さらに大学院プログラムを開始するなど, その
活動分野も広がっております。これらの国連大学の研究と教
育の分野における活動が, 今後も一層充実していくことを確
信しております。

また、国際社会においてはテロや感染症の拡大といった問題が深刻さを増し、国連及び国連大学の任務である地球規模課題の解決はますます重要なものとなってきています。国連大学は、マローン学長のリーダーシップの下、国連におけるこれらの地球規模課題の解決に積極的に関わり、持続可能な開発のための2030アジェンダの策定においても、国連大学の研究成果が国際的な議論に貢献しました。本日、このようなシンポジウムの際にて、国連大学の研究の成果が披露されることは非常に喜ばしいことです。

御列席の皆様、

2030年までの世界の変革を目指す新たなアジェンダの採択を受けて、今、国際社会では、国際社会、地域、国のあらゆるレベルにおいて、アジェンダの実施についての議論が盛り上がりを見せています。

包括的かつ野心的な17のゴール、169のターゲットを掲げる2030アジェンダの実施は、政治的、実践的課題であるだけでなく、新たな発想や総合力が問われる知的課題でもあります。

例えば、膨大な額となる開発資金や科学技術を始め、様々な実施手段をどのように確保していくか。効果的なモニタリングやフォローアップの過程を確立するため、国際機関、地域機関、そして各国政府がどのように連携していくべきか。そして、先進国自身が、自国の発展計画や援助政策に2030アジェンダをいかに取り込んでいくか。こうした前例のない課題に取り組むには、綿密な分析と、大胆な構想力とが不可欠であり、国連大学を筆頭に、世界の知的コミュニティの貢献が、今後いっそう求められることになるでしょう。

御列席の皆様、

安倍総理大臣が9月の国連サミットで明確に述べたとおり、2030アジェンダには、人間中心の考え方、女性、保健、教育、防災、質の高い成長など、日本が一貫して重視してきた要素が反映されています。政府として、この野心的かつ包括的なアジェンダの採択を心から歓迎し、その実施に全力を尽くす考えです。

実施のためには、民間企業、市民団体、そして有識者を始めとするあらゆるステークホルダーが参加し、それぞれの役割を果たすグローバル・パートナーシップが不可欠です。今回のこのシンポジウムで有意義な議論が行われ、御参加のすべての皆様方が、そのようなパートナーの一員として貢献されることを心から期待して、御挨拶に代えさせていただきます。

(了)